

アフリカ豚熱防疫体制構築に 向けた防疫演習の概要

沖縄県
農林水産部畜産課

沖縄県の野生いのしし

主な生息域

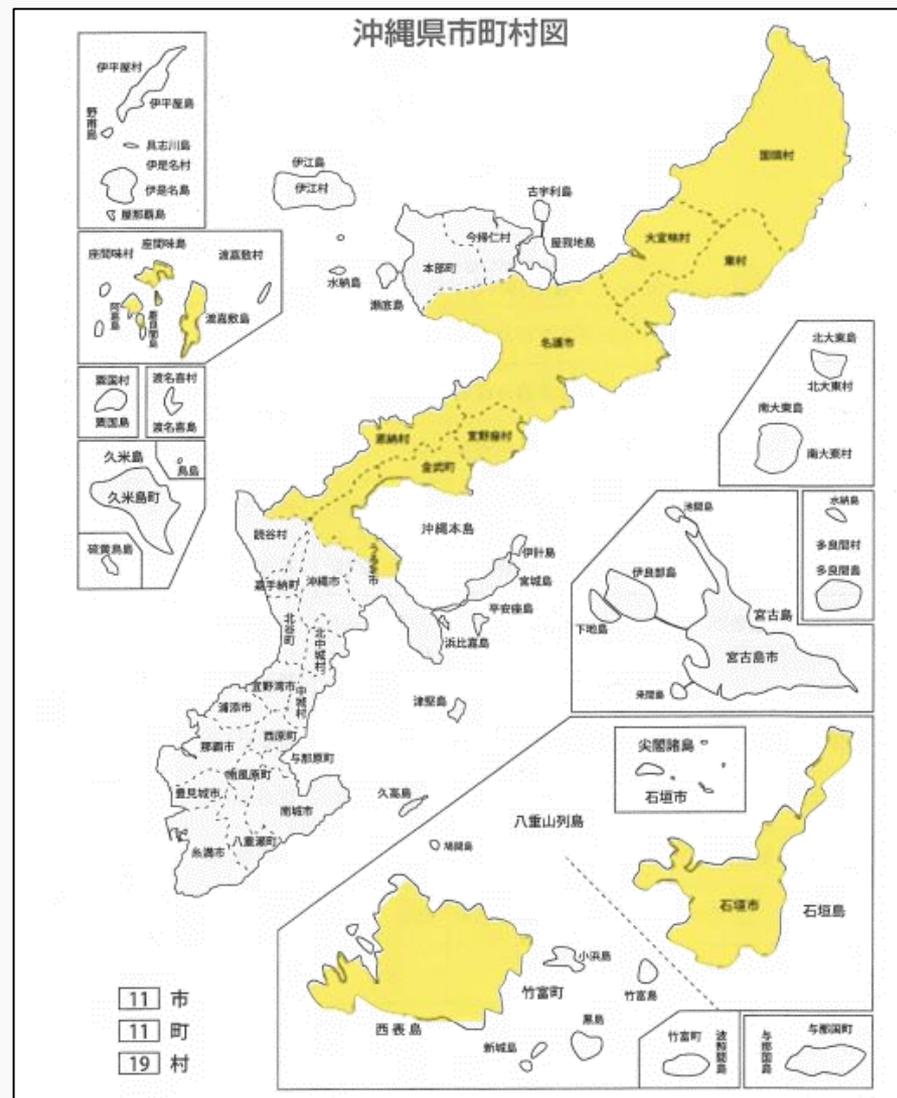
沖縄本島北部
八重山諸島

在来種

リュウキュウイノシシ
※成雄で体重60kg程度

豚熱浸潤状況

R2年農場で発生も、
野生いのししでの豚熱は未確認



- 野生いのししにおけるASFの防疫対応は多岐にわたり、家保単独での対応は困難
- これまで県内いのししでは豚熱の発生もなく、防疫対応の理解や関係機関との連携は不十分



**基本的なことから確認し、共有するため
3つの防疫演習を実施**

1

RC演習

2

実地演習

3

机上演習

• 想定

県内の野生いのししでASFが確認され、積極的捜索により死体を発見したと想定

• 内容

①消毒ポイントの設置

②現地拠点の設置

③死体処理：ダミー死体を用いた搬出処理

原則

農研機構の
協力・指導の下

野生いのしし死体を用いた消毒処理

• 参集範囲

国、県、市町村、猟友会、森林組合など 48名



• 野生いのししの確保

市役所を通じて、有害捕獲個体の譲渡を捕獲者に依頼

検査で陰性を確認し、密閉容器にて冷凍保管



体長50cm、体重35kgのメス

• 演習地の確保

死体の消毒処理を含めた演習ができる森林の提供を、県林務課に依頼

- 1年程度死体を埋めておける
- 野生いのししの生息地域である
- 参加者の見学スペース、駐車スペースが確保できる…

実地演習 | ①消毒ポイントの設置



無人の消毒ポイントとして、陽性確認地点周辺の登山道入口などに設置を想定

消毒手順等を説明しながら実演



実地演習 | ②現地拠点の設置



資材の準備や防護服等の着脱、作業後の消毒を行う一時的な防疫拠点として、登山道入口への設置を想定



必要資材を確認



防護服を着用して移動

- ダミー死体を用いた搬出処理
- 野生いのしし死体を用いた消毒処理

共通工程

- 作業拠点の設置と防護服の着用
- 発見地点と周辺の消毒
- 死体観察と検体採取
- 撤収作業



実地演習 | ③死体処理 (共通工程)



- (1) 作業拠点の設置と防護服の着用
- (2) 発見地点と周辺の消毒
- (3) 死体観察と検体採取

実地演習 | ③死体処理 (搬出処理の場合) 10



(4) 厚手ビニール袋で死体を梱包

(5) 袋の上から消毒

(6) 手指、長靴などを消毒

実地演習 | ③死体処理 (搬出処理の場合) 11



(7) ソリに袋を固定

(8) 防護服を替え、作業
拠点を撤収

(9) 死体をソリで現地拠点
まで搬出

実地演習 | ③死体処理 (搬出処理の場合) 12



- (10) 最後尾から消毒しながら現地拠点まで移動
- (11) 現地拠点でソリごと車両に積載
- (12) 防護服の脱衣、消毒、撤収作業